

共生

奈良県生協連

2012年1月

NO.83

万葉のいぶきを求めて—(48)



梅の花

春されば まず咲く宿の 梅の花 独り見つつや はるひ 春日暮さむ
やまの うえの おく
山 上 憶 良

天平2年（730年）正月13日、大宰府の長官おおもものたびと大伴旅人の邸で梅花の宴が開かれていました。大宰府の役人や管内諸国の国司が集まった宴で、1人1首ずつ計32首の歌が詠まれ、収録されています。この歌はその中の一首で、貧しい人々に思いを寄せた歌で知られる山上憶良の歌です。参列者の多くは、宴に招かれた事を喜び、花の美しさを称える歌を詠む中で「いやいや、独りでゆっくりと春の一日を過ごしたいものだ」と自己主張をする憶良の歌は異色ですが、爛漫の桜の花と違って、清楚な花の姿と、ほのかな香りは、独りで眺めながら春の一日を過ごすのが相応しいのかも知れません。

梅は7世紀末の藤原京時代に中国から渡来した花で、この頃は貴族の邸だけに植えられていて、白梅だけでした。後になると桜が花を代表するようになりますが、万葉の時代は梅が好まれたようで、万葉集には桜の歌は42首に対し、梅の歌は118首と断トツです。



新年のご挨拶

新しい年、「協同組合年」にふさわしい コープ・ルネッサンスの活動を推進しよう

2012年1月

奈良県生活協同組合連合会 会長 瀧川 潔



奈良県生協連の会員生協および組合員のみなさん、あけましておめでとうございます。

いよいよ、国際連合で設定された「協同組合年」の年の明けです。

昨年は東日本大震災や紀伊半島豪雨災害など未曾有の災害の連続と、欧州通貨危機をめぐる厳しい経済状況、原発問題やTPPをはじめとする政治の紛糾が続き、私たちの暮らしにも大きな影響を及ぼしましたが、復興と人間の絆を強める私たちの活動も、奈良県をはじめ全国で大きく前進しました。

今年も経済や政治の動きは混とんとした状況が継続するものと考えられますが、これに負けることなく、私たち市民・消費者・生活者・組合員の活動は、「人と人とのつながり」を土台にしてふるさとの大地に根を張り、復興と絆を強める力強い前進を続けて行く必要があります。私たちの暮らしを質的に向上させるために、食を中心とする商品や暮らしの共済の問題、少子高齢化における福祉や医療、安心・安全、エネルギーや環境、さらには平和の問題など、暮らしにかかわる大切なことには政治的な問題にもしっかりと目を向け、人の絆を強める協同の心を大切に、活動と事業を広げ強めて行きましょう。

特に奈良県生協連としては、奈良県に初めての医療福祉生活協同組合を設立する運動が昨年立ち上がりました。日本医療福祉生協連合会の支援を受け、ならコープ、コープ自然派奈良、生活クラブ生協の地域生協を中心に、全会員生協の力で運動を進めています。今年の3月末には設立総会を成功させ、8月までには診療所の

事業と健康づくりの幅広い運動を進めることをめざして、今各地で賛同者と仮出資金を募集する運動が繰り広げられています。ぜひとも設立を成功させましょう。

私たちの協同組合の運動は、歴史的に見れば産業革命後の強烈な資本蓄積と多数の人間のくらしの荒廃の中で「人間の大切さ」を再確認し、「人と人とのつながり」、「一人は万人のために万人は一人のために」といった「人の絆」を活かす経済を構築してゆく運動として立ち上げられました。経済や文明の発達が目覚ましい今日の世界においても、多数の人間のくらしが脅かされる中で、この精神は光を失うどころか、ますますその輝きを増してきていることを、多くの人々が肌で感じとっている状況にあります。時代の流れは、まさに先にも提起した「コープ・ルネッサンス（協同の復興）」がもとめられている状況にあるでしょう。

私たち協同組合がそれぞれの地域で、人と人とのつながりを活かし、協同の精神を発揮して活動と事業を進めることで、復興とくらしの質的向上、社会のいっそうの発展に向けて地道で大切な力を発揮してゆくことができます。

今年是这样した活動をしっかりと進めることによって、「協同組合年」にふさわしい「コープ・ルネッサンス」の活動を推進してゆきましょう。会員生協や組合員のみなさんの、くらしに目を向けた活動や事業についての一層のご奮闘と、医療福祉生協設立をはじめとする奈良県生協連の活動へのいっそうのご結集を心から願って、新年にあたってのご挨拶といたします。

もくじ

新年のご挨拶 瀧川潔県連会長……	1	秋葉忠利氏講演会……	5
新年のご挨拶 荒井正吾奈良県知事…	2	食の安全シリーズ……	6
医療福祉生協名称決定……	3	おじゃましました・県立大学生協…	7
医療福祉生協設立趣意書……	4	広がる協同・くらしの輪……	8、9、10



平成24年 新年ごあいさつ

奈良県知事 荒井 正吾



謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

昨年は、三月に東日本大震災が、九月には県南部地域を中心に甚大な被害をもたらした紀伊半島大水害が発生しました。お亡くなりになられた方々に対し、謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災されました皆様方に心からお見舞いを申し上げます。また、各会員生協の皆様が、「相互扶助の精神」に基づき、率先して被災地への救援物資の輸送や義援金活動に献身的に取り組んでいただきましたことに、深く感謝を申し上げます。

この度の災害では、至るところで市民による多様な被災地への支援が行われ、共助・共同の必要性や協同精神が息づく安心・安全な暮らしと地域づくりの大切さについても社会認識が広まりました。

紀伊半島大水害からの復旧・復興は、県政の最優先課題であり、被災地の皆様の声をお聞きしながら、一日も早く復旧が出来るよう、更に将来にわたり住み続けられる南部地域とするため「災害に強く希望の持てる地域づくり」に向け、今後も全力を挙げて取り組んでまいりたいと考えています。

就任以来、私は奈良県をよくしたいとの強い思いのもと、数多くの課題に、全力を尽くして取り組んでまいりました。今後も、県政は県民のためにあることを基本とし、これまで育ててきた発展の芽を更に大きな成果へと結実させ、より良き奈良の未来づくりを進めてまいりたいと思います。「未来の県民」も、われわれ県庁に働く者の上司であるとの意識を持ちながら、奈良が良くなったと「未来の県民」に思ってもらえるよう、職員一同気持ちを込めて各般の取組を推進いたします。

今年も、強い意志をもって「自立した奈良県をつくる」ため、「経済活性化」と「くらしの向上」を柱とし、これを支えるため、県民の地域活動やボランティアへの参画を促進して、直面する県政課題の解決に向けた取組を進めてまいります。

まず、地域産業・雇用の分野では、「県内で暮らし、県内で働く」ことを目標に、新産業の

創出や雇用のミスマッチの解消、就業支援に向けた取組などを一層進めていきます。

次に、地域医療体制の整備・充実については、北和及び中南和地域における高度医療拠点病院の整備、南和地域の医療体制の充実、安心できる救急医療の確保、地域医療連携体制の構築などの取組を引き続き意欲的に進め、「奈良の医療は奈良で守る」体制を確立します。

中南和・東部地域の振興として、南部振興計画に基づき、「産業振興の強化と安定した就業の場の確保」「安全、安心、快適な生活を支える社会基盤の整備」「地域の魅力資源を活用した観光・交流・定住の促進」の三つの視点から、プロジェクトを推進します。

防災計画の見直しについては、東日本大震災の教訓や紀伊半島大水害の経験などを踏まえ、本県で想定しうる大規模災害の発生時に迅速かつ的確な対応が図れるよう市町村との連携のもとに県及び市町村の防災計画の見直しを進め、安心と安全の確保を図ります。

このほか、高齢者や障害者が元気でくらしやすい地域づくり、きれいで賑わいのあるまちづくり、観光の振興、多様な学びの支援、文化の振興などにも鋭意取り組んでいきます。

私は一つ一つの課題について、知恵と工夫を凝らし、関係者と協議・調整を重ね、着実に進めていくことが大事だと考えています。良くなったという実感が自信につながり、それがまたより良い暮らしを創造する原動力となっていくと思います。

これからも、県民の皆様のご意見やご提案に十分に耳を傾け、皆様と力を合わせて奈良のより良き未来を築いていきたいと考えております。

折しも今年、「国際協同組合年」であります。新しい未来を切り開くため、協同組合活動の更なるご発展と皆様の一層のお力添えを心からお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。

名称決定!

健康づくりをすすめる 「奈良県医療福祉生活協同組合」

奈良県医療福祉生活協同組合設立発起人会

10月22日の第4回発起人会で白熱議論の末、誰が見てもすぐ分かるようにとオーソドックスな名前に決めました。ただし名前の前には必ず「健康づくりを進める」というコピーを付けることになりました。ここに発起人の強い思いが込められています。どうぞよろしくお祈りします。

お知らせチラシや加入用紙も完成し、11月20日、設立運動スタート集会がならこぽ「ならこみみなし」で開催されました。3つの講演や健康体操、健康チェックに試食と盛りだくさんのプログラム。医療福祉生協連や大阪の3医療福祉生協のご支援をいただきました。



健康体操

日本医療福祉生協連合会藤谷恵三専務理事からは「いのちの分野の生協をつくる意義」と題して、将来の高齢社会で重要な「わ」をつくっていきこうという激励のご挨拶、ヘルスコープおおさかの永田三枝子保健師さんには「健康づくりと健康体操」で「一人ぼっちにさせない」という医療福祉生協の良さをワークショップで実感させていただきました。

なにわ保健生協理事長で医師の山下正人所長は「身近なホームドクターが語る家族の健康」として健康づくりと人に向き合う医療、組合員とともに育てる医療が生協の特徴と話されました。医療生協かわち野常務理事の富田智和さんからは、退職後に組合員活動に専念し、診療所建設に取り組み、組合員のたまり場づくりを進められています。延べ参加者100人余り、早速加入用紙を持ってきてくださった方も医療福祉生協の良さに実感！設立への期待が高まりました。



店内ではヘルスコープおおさかの組合員さんのご協力を得て、血圧や体脂肪の健康チェックを行いました。好評で来店者の52人が体験されました。こうした気軽に受けられる場は自分の健康状態を知るいい機会になります。茸汁と十穀米の試食も好評、作ってくださったはつらつエプロンの皆さん、大阪の医療福祉生協のみなさん、ご協力ありがとうございました。

参加者の感想から

医療生協がどういうものかよくわかった、ぜひ作りましょう

支部活動が大事だというのがよくわかった

医療福祉の医師は身近な存在になると思った

賛同者の加入状況 賛同者数 213人、仮出資金 888.3万円 (12月26日現在)

奈良県医療福祉生活協同組合創立総会 開催予定

2012年3月31日(土) 14:00 ~ 16:00 奈良県橿原文化会館小ホール

広く奈良県民のみなさまに呼びかけます。

奈良県医療福祉生活協同組合設立趣意書

国は財政難と高齢者人口の増加を理由に社会保障制度や医療保障制度をたびたび改変し、国民の健康格差が広がっています。奈良県は健康診断の受診率が低く、医師数も全国平均以下です。また、『患者の県外流出』も突出しています。さらに、東南和の山間地域では医師や看護師不足による医療の地域格差が拡大し、地域の人々の将来への不安が広がっています。

私たちは、地域調査や学習を進める中で県内の疾病予防や医療の状況を知り、地域の人々の医療に対するさまざまな思いや願いを聞いてきました。そして、健康・医療・介護等を自らの問題として捉え、医師などの専門家とともに協同して解決していく「健康・医療・暮らし・いのちを守る医療福祉生活協同組合」が奈良にはぜひ必要だと確信しました。

誰もが等しく、住み慣れた地域で健やかに暮らし続けたいと願っています。

そのためには、健康づくりや病気と治療、介護について学び、教えあい、予防活動や健康診断の受診を広げていく必要があります。

希薄になりがちな人と人とのつながりを強め、老いても健やかに安心して暮らせる地域づくりをすすめる必要があります。

医療や介護の専門家といっしょに健康づくりをすすめ、患者や高齢者の気持ちに寄り添う医療・福祉の活動に取り組みたいと考えます。こうした活動は、生活協同組合を通じて実現できるものと信じています。

私たちは、多数の地域の人々の参画と奈良県生活協同組合連合会に参集する九つの生活協同組合の支援によって、医療福祉生活協同組合を設立し、他の協同組合や医療機関とも協力しながら、自らの診療所を拠点とする事業を開始したいと考えます。

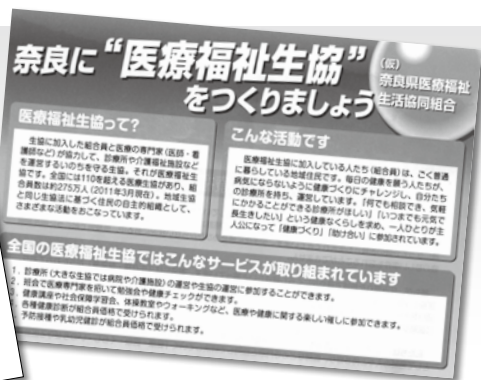
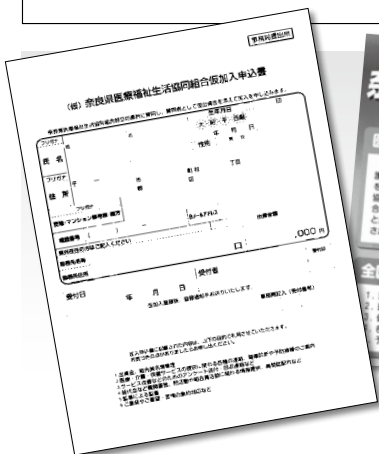
大正時代、奈良県では、協同組合の前身である産業組合が、組合員の健康増進と地域医療のための利用事業運動を進め、さらに奈良県立医科大学付属病院の前身である協同病院を設立しました。こうした先人の精神を引き継ぎ、2012年の国際協同組合年に、再び地域の人々の力を集めて地域住民の暮らしと健康に貢献できる医療福祉生活協同組合を設立し、大きく育てていきましょう。多くの方々のご賛同をお願いいたします。

2011年12月17日

奈良県医療福祉生活協同組合設立発起人
代表 仲宗根 迪子

吉田	吉田	山田	森城	村田	宮田	湊村	松田	松脇	堀見	逸野	福野	中野	仲宗根	辻	谷川	立石	辰巳	竹島	瀧澤	千下	木田	木森	紙藤	加藤	大久保	確井	指宿	朝守	青木
頼子	磯満	宏之	佳正	代子	初恵	夕由	紀純	幸啓	素子	迪子	由子	規子	千彦	嘉直	茂潔	恭子	厚子	洋子	美保	珠枝	哲夫	照一	洋彦	令俊	秀彦	俊	俊	俊	俊

設立発起人



趣旨に賛同くださる方のご加入
とご紹介をお待ちしています。

問合せ先

奈良県医療福祉生活協同組合
設立発起人会事務局

TEL 0742-35-1183
(ならコープCSR経営管理内)

奈良の地で平和と核兵器廃絶の願いを確かめ合いました

秋葉忠利 前広島市長講演会 12.3 (土) ならまちセンター

12月3日開催された「ピースアクション2011in なら」は、秋葉前広島市長による講演やトークを通して、平和を考える集いとなりました。会場のならまちセンター市民ホールには200人を超える市民と行政首長のみなさまが参加、熱心に秋葉さんの話に耳を傾け、核兵器廃絶への思いを強めました。

お忙しいなかご来賓として、奈良県消費・生活安全課 森藤勝彦課長、福井重忠奈良市副市長、山下真生駒市長、西本安博安堵町長、北口秀章安堵副町長、平岡仁広陵町長のみなさまに、ご臨席いただきました。



講演される秋葉忠利さん

21世紀は市民の力で問題を解決できる時代 秋葉さんの講演から

一致点を見つけて手をつなごう! パッチワーク・キルトのように

◆**被爆者が生んだ「和解の哲学」** 被爆者は体験を語り続け、三度目の核兵器使用を阻止しました。復讐や敵対という世界観を捨て、和解の哲学を作り出し実践しています。誰にもこんな思いをさせてはならない。「誰にも」の中には敵も含まれているのです。苦しみを前向きエネルギーに変えました。

◆**想定外を想定内にとらえることが必要。**核兵器の使用は想定外ではなく世界は大きく変わりつつあります。そして真の核抑止力をもっているのは核兵器ではなく被爆者自身なのです。

◆**都市や市長の声を** 地球規模の問題解決には、国家ではなく都市と都市の関係を重視。都市は国益よりも市民の住む場所を守ろうとします。そうすれば争わずに問題を解決していけます。

◆**これからの市民運動は** 違いで背を向け会うのではなく、共通項を見つけて連帯することが大切。パッチワークが隣の1辺だけが合えばつながるように。力強い市民運動で、2020年核兵器廃絶を進めましょう。

秋葉さんと語ろう! トークコーナー

秋葉さんの講演の後、(財)奈良YMCAの藤井辰男さんのコーディネートで和やかにトークがすすめられました。各世代の9人の方が、秋葉さんに聞いてみたいことをボードに記入し質問しました。「原子力の利用 代替エネルギーについて」「大学生の僕たちに何が出来るの? 教えて!」「核兵器廃絶をスピードアップさせる方策は?」「戦争について小学生にどのように伝えたらいいですか?」「原爆を受けた方々はどの様な思いでおられるのでしょうか?」「原発は核の平和利用なのでしょうか?」「5歳と7歳の子どもの平和をどの様に伝えたら?」「後世に伝えるべき日本人の文化や心は何だと思われませんか?」「憲法9条を変える声もあり、どの様にお考えですか?」

秋葉さんからは丁寧に答えていただき、「夢に期限をつけると目標になります」と、前進のあった2010年NPT以降、2020年までに核兵器廃絶への道筋を期限をつけて活動していくことの大切さを語っていただきました。



9名の方から質問

市長さん・町長さんが語る平和



トークコーナーの最後は山下真生駒市長、西本安博・安堵町長、平岡仁・広陵町長が登壇、核兵器や平和についてのご自身の思いや、行政で実践しておられる取り組みなどについて熱く語られました。

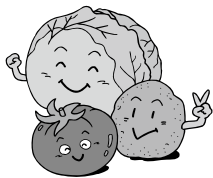
ぼくたちわたしたちにできること!!

白檀南小学校の皆さんが署名を手渡し



平和学習に熱心な檀原市立白檀南小学校のみなさんが修学旅行で行ったヒロシマで感じたことを実行したいと「核兵器禁止条約の早期実現を求める署名」に取り組んでいます。集まった署名を平和市長会議に届けて、と秋葉さんに託しました。

食の安全



放射性物質による食品汚染の問題では、奈良県生協連の会員の3つの地域購買生協では組合員の不安に応えるために勉強会が県内で複数回開催されています。大学生協では、京都事業連合が国の基準値に基づいた対応の見解を示して運用しています。奈良女子大学生協では附属中等教育学校の生協食堂の食材に対しての保護者から問い合わせがあり、京都事業連合に添い対応されています。



食の安全懇談会の様子

第3回 食の安全懇談会を開催

奈良県生協連では、奈良県の現状を知るために、県職員の方を講師に招き、2011年10月26日(水)奈良県文化会館にて開催し、奈良県生協連の会員生協の組合員32名と県職員6名が参加しました。

- ① 環境中の放射線測定の現状
(環境政策課)
- ② 奈良県農産物の放射性物質の測定等について
(農業水産振興)
- ③ 諸外国に輸出される農産物の証明書の発行について
(農林部マーケティング課)
- ④ 生食用食肉に関する最新の状況
(消費・生活安全課食品安全推進係)

以上について県の取組み報告があり意見交換。放射線量の測定機器や検査体制などの質問が出され、回収したアンケートの意見からは、県外から流通する食品に対する消費者の不安を受け止め、的確に応える場が現在はないことがうかがえます。リスクコミュニケーションの場を求める意見が出され、県の懇話会などの要望も受け、2012年2月10日には県主催・消費者庁後援のシンポジウム「放射性物質の食と健康への影響」の開催が決まりました。

会員生協の取り組み

*** ならコープ ***

- 12/6 食品の放射性物質汚染問題を考える
(松永和紀氏)
- 12/20 福島原発から学ぶ、放射能が私たちに与える影響について
(安斎育朗氏)

*** コープ自然派奈良 ***

- 12/10 21世紀の日本人の生きざまー有機農業と原発とTPP
(西村和雄氏)
- 12/12 チェルノブイリのお母さんと同じ涙を流さないために
(野呂美加氏)

*** 生活クラブ生協 ***

- 12/8 子どもを放射能から守ろうー内部被ばく学習会
(入江紀夫氏)



コープ自然派奈良主催

「食の安全にかかわる組合員リーダー向けセミナー」に参加

2011年12月9日(金)新大阪にて日本生協連主催のセミナーがあり、7生協2生協連から理事、職員24名が参加。「食品と放射線・放射性物質について」(講師:大阪府立大 地域連携研究機構・放射線研究センターの古田雅一氏)の講義の後、6人でのグループディスカッションとコープこうべとみやぎ生協からの取組み報告がありました。原子の構造や放射線の定義などの基礎の説明もあり、グループディスカッションでは進行役からの疑問点を引き出す問いかけで、グループ内で共有化する方法と時間が取られました。コープこうべでは組合員(コープ委員と総代)のべ2000人に対して情報提供や学習会の機会を設け、またみやぎ生協でも理事と職員が中心になって積極的に組合員への不安に寄り添い放射線に対する学習会を開催しているという報告がありました。

食生活の相談に乗ります！

大学生協では、「食生活相談会」を生協活動の中に位置づけ、学生委員が主体的に楽しく企画し相談会を行っています。そこで、11月28日奈良県立大学生協の食生活相談会に行ってきました！

授業が終わった
学生さんをお誘い



教室をうまくレイアウト

生協食堂の近くの教室を会場に食生活相談会が開催されていました。教室では血圧測定や体組織（身長・体重測定）、握力測定さらにアロマや牛乳、ミカンのコーナーなどさまざまなコーナーがつけられ、奈良県栄養士会から栄養士さん3名もお呼びして具体的なアドバイスも受けられるようになっていきます。

奈良県立大学生協では、毎月「食生活相談会」を行っています。特に6月と11月の年2回はブースの種類を多く期間も長くして組合員に食生活について考え直す機会を設けているそうです。

奈良県民は全国に比べ野菜摂取量が少ない。特に若い人ほど1日に取る野菜の量が少ないという結果が出ています。（平成19年度奈良県民健康栄養調査）



先生も握力測定



血圧を測ろう！



掲示物も見てね！

自ら記入したチェック票に基づき、生活スタイルや食事バランス・健康チェックからアドバイス。若い時からの食生活が将来に影響します。

「生協では4つの柱（共済加入・給付・予防提案・報告）に基づいて活動。それにぴったりの活動がこの食生活相談会です」と話すのは企画の中心になった木下さん。

学生委員が38人と大学内での比率が高く、少なくとも38人は必ず健康に気を付け他の学生に広がると期待されています。

最後に3人の栄養士さんと反省会。栄養士さんから「野菜が足りないとわかっている。自炊はせずサラダパックを購入して食べても足りない。4年間継続して改善している人もいるが2極分化している。深夜のアルバイトなどで生活そのものが乱れ1食しか食べていない人もいた。」生協として何が出来るか、食堂に野菜の小鉢を増やすことや手ごろな値段で具の多い味噌汁を作ってもらおう要望を上げみんなでも利用しようなどと検討されていました。ここまでするのが生協らしいですね。



企画されたみなさん（左から板倉さん、木下さん、松島さん、長濱さん、岩井さん）



栄養士さんと反省会

広がる協同・くらしの輪

共通の願いは 奈良を、くらしをよくしたい!

第2回 地域生協組合員理事交流会を開催

2011年12月13日 大和郡山市市民交流館

交流を通して共に元気になり問題意識を共有する場として12月13日、昨年度に引き続き第2回目の地域生協組合員理事交流会を開催しました。今回のテーマは「もっと知り合おう」。大和郡山市市民交流館には、生活クラブ生協、コープ自然派奈良、ならコープの3つの地域購買生協から29人の組合員理事が参加、初めて顔を合わせる人もいるなか話が弾み、楽しくすすめられました。



「どんな生協でありたいか」を報告される理事さん

実行委員会（委員長：辰巳千壽子コープ自然派奈良理事長）では、各生協で「どんな生協でありたいか」を事前に討議してもらい、この日持ち寄りました。また冒頭「2012年は国際協同組合年。日本の、奈良の生協の私たちができることを考えよう」との問題提起があり、奈良をよりよくするために何ができるかをグループで話し合いました。最後のグループ発表では、「奈良は古都で自然も豊か、自らの魅力を知って元気になる」「地産地消」「福祉の充実」を大切にしながら、「行政や地域の人たちと連携したり、はたらきかける」「枠を超えてつながりたい」など、今後の活動に向けての思いが出されました。

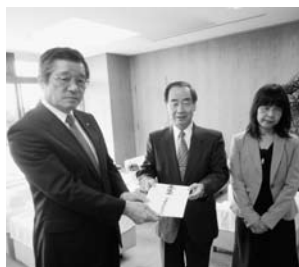
楽しい昼食の交流時間も含め、こだわりや組織の違いはあるけれど生協組合員のめざすものや思いは共通であることが確認でき、一緒に何かができる可能性を感じあえる一日となりました。

□全国から寄せられた心温かい義援金を届けました

9月の台風12号による被災者を支援するため、奈良県生協連、三重県生協連、和歌山県生協連で合同の募金口座を開設し、全国の生協の皆様から12月20日現在、34,539,605円の心温かい募金が寄せられました。ありがとうございました。

そのうち、10,704,494円を奈良県生協連を通じて被災された6つの自治体（奈良県、五條市、十津川村、天川村、野迫川村、黒滝村）にお届けさせていただきました。

訪問時にご対応いただいた各市長・村長さんからは、「大切にに使わせていただきます。全国の生協の皆様によろしくお伝えください」との感謝の言葉をいただきました。その後被災の状況や復興の取り組みについて懇談させていただき、「被災後真っ先に生協の皆さんが物資を届けていただいたことに本当に感謝している」とのお言葉もいただきました。



10月31日奈良県奥田副知事と



11月2日十津川村更谷村長と



11月10日五條市太田市長と



12月16日天川村森本村長と

□2011年度第2回生協・行政協議会 ～県への要望書に関する回答と意見交換～

日時：2011年11月10日(木)
場所：奈良県文化会館

10月に提出した要望書への回答から、県消費・生活安全課5名と奈良県生協連理事との意見交換を行いました。サーバイメーターを活用したスクリーニング検査やゲルマニウム半導体検出器での精密検査を実施するなどの強化策や、食の安全についての意見交換会を今年度も実施すること、消費者行政活性化基金後の啓発や情報交換の研修を行ったこと、次年度も延長し支援していくこと、災害時の緊急物資の備蓄の見直しをし、現金積立にすること、多様な再生可能エネルギー普及のためワーキンググループでエネルギー利活用検討委員会を年度内に立ち上げ県として多様なエネルギー政策案を取りまとめること、医療生協の設立についてはこれまで同様に支援を行っていきたいとの回答がありました。



県消費・生活安全課のみなさまと奈良県生協連理事・監事との意見交換

県への要望書(平成23年度)のポイント

- | | |
|--|---|
| <p>① 食の安全確保に関すること
放射性物質の検査体制の強化と公表、学習会の開催、奈良県食品安全推進条例の制定、担当課及び関係部署と奈良県生協連との懇談の場の設定、地域循環を進めるための有機農業の推進</p> <p>② 消費者行政強化に向けた施策に関すること
県のサポートの強化、消費者団体やグループの情報交流と活性化支援</p> | <p>③ 防災問題に向けた施策に関すること
関係機関・事業者・NPOなどとの連携強化、防災統括室や県協働推進課の積極的な関わりと連携強化</p> <p>④ 再生可能エネルギーの積極的な推進</p> <p>⑤ 地域医療の充実
医療福祉生協創立、事業開始に向けた連携強化支援</p> |
|--|---|

□シンポジウム「COP17／CMP7に向けて」

11月13日(日) 13:30～17:00エルおおさかにて、温暖化防止ネットワーク関西主催のシンポジウムがあり各府県連、生協関係者、NPO、市民など約50名が参加。COP17ダーバンに向けた交渉の現状と課題(名古屋大大学院教授 高村ゆかり氏)、「ダーバンに向けた日本政府の対応」(環境省地球温暖化対策室 竹谷理志氏)、「ダーバンでの課題～NGOの視点～」(WWFジャパン山岸尚之氏)、「福島原子力発電所事故と25%削減」(CASA早川光俊氏)の報告があったあと、パネルディスカッションと会場との意見交換がありました。日本は、国内でのエネルギー政策を早急に立直し、国内温暖化対策を法的にも進めるべきであり技術面を持って途上国支援することが重要であるとの意見が出されました。



気候変動枠組み条約第17回締約国会議 (COP17)

11月28日～12月11日までダーバンにおいて開催されたCOP17は予想通り難航しましたが、第1約束期間が2012年末で期限切れになる京都議定書は延長され2020年に新たな法的枠組みを発効させることを盛り込んだ合意(ダーバン合意)がなされました。日本政府はロシア、カナダとともに京都議定書の第二約束期間を受け入れず、自主的な数値目標を掲げて取り組むことを表明しました。各国が掲げる自主削減目標を厳格に実施しても、世界の気温上昇を2℃未満に抑えるには大きな隔りがあるのが現状です。

□2012年は国際協同組合年（IYC）

国連は2012年を国際協同組合年（IYC）としました。世界の協同組合の連合組織である国際協同組合同盟（ICA）は93カ国、249団体、参加の組合員は世界全体で10億人を超えます。世界最大のNGOとして協同組合は市民的公共性の有力な担い手であり全ての地域において経済社会の発展に極めて重要と、国際機関から高い評価を受けていることが国際年につながりました。

IYCには以下の3つの目的があります。①協同組合についての社会的認知度を高める（協同組合の貢献、協同組合の世界的ネットワーク構築や平和への取り組みに等について知ってもらう。②協同組合の設立や発展を促進する。③協同組合の設立や発展につながる政策を定めるよう政府や関係機関に働きかける。

国内でも実行委員会が発足し協同組合憲章策定の検討や地域での取り組みをすすめています。奈良県でも県内の協同組合で構成する奈良県協同組合連絡協議会で7月の協同組合デーに向けて準備を進めるほか、協同組合についての学習や、地域社会への情報提供に取り組んでいきます。



□岩手県の支援活動を視察と社会づくりフォーラム

奈良災害支援ネット事業の取り組み

「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」の一つとして奈良NPOセンターを中心に「奈良災害支援ネット事業」がすすめられています。この取り組みには奈良県生協連も会議体メンバーとして参加して、県内外のネットワーク設立やデータバンク、人材育成、支援マニュアルなどについて検討しています。

12月6日、7日には会議体メンバーによる岩手県へのボランティアセンター視察があり、奈良県生協連から辻専務が参加しました。訪問したのは宮古市等で活動する盛岡市社協の「かわいキャンプ」と遠野市に拠点を置く「遠野まごころネット」です。



遠野まごころネット

震災から9カ月が経ち、多くのボランティアが引き揚げる中、現地支援のかたちも変化しています。被災された方は復興の行く手が見えにくく不安や疲れが増えています。細やかな心の寄り添いや、地域の中でのコミュニケーションのサポート、また地元の方自身の手による起業や街おこしがすすむように、提案やサポートを強めることが大切になってきていることなどを、視察を通じて学びました。

また 12月18日(日)には「社会づくりフォーラム」を開催、講師に石巻災害復興支援協議会の伊藤秀樹氏を招き災害ボランティアと行政・地域の連携を考えました。

奈良県生協連 第4回理事会報告

11月10日 奈良県文化会館

【主な審議事項】

- (1) ピースアクションinなら2011（第22回奈良県生協大会）に関する件（第3次）
- (2) 医療福祉生協設立支援方針（第2次）
- (3) 台風12号募金の被災地への寄託について
- (4) その他事項の件
 - ①奈良の消費者行政を考える会のシンポジウムの開催について
 - ②TPP交渉への拙速な日本政府の参加に反対する取り組みについて

県連日誌

10月

- 2日 災害支援ネット・避難者交流会
- 3日 大和高田市長と懇談（奈良の消費者行政を考える会）
- 7日 近畿地区大規模災害対策協議会
- 11日 県安心安全すまいづくり協議会街頭啓発活動
- 13日 広陵町訪問（奈良の消費者行政を考える会）
- 14日 ピースアクション自治体訪問
- 15日 医療福祉生協健康講座
- 21日 関西地連府県連協議会
- 22日 医療福祉生協設立発起人会
- 26日 食の安全懇談会
- 26日 地域生協組合員理事交流会 実行委員会
- 31日 奈良県に募金目録贈呈

11月

- 2日 十津川村に募金目録贈呈
- 9日 近畿地区府県連協議会
- 10日 第2回生協・行政協議会
- 10日 奈良県生協連第4回理事会
- 10日 五條市に募金目録贈呈
- 16日 ピースアクショントークコーナー打ち合わせ
- 17日 第32回奈良県公衆衛生学会
- 17日 奈良県新しい公共の場づくり会議
- 20日 医療福祉生協設立スタート集会
- 25日 全大阪消団連学習会
- 26日 医療福祉生協発起人会

12月

- 1日 関西地連運営委員会
- 3日 ピースアクションinなら・秋葉忠利前広島市長講演会
- 6～7日 新しい公共の場づくり東日本視察
- 8日 日本生協連全国県連責任者会議
- 9日 日本生協連食の安全セミナー
- 12日 奈良大学生協部会
- 13日 地域生協組合員理事交流会
- 16日 天川村に募金目録贈呈



お知らせ

ご案内

奈良消費者シンポジウム2012

消費者行政活性化計画の成果とこれから ～つけよう消費者力・つなごうネットワーク～

日時 2012年2月18日(土) 13:30～16:30 **場所** 奈良県産業会館(大和高田市)

主催 奈良県、奈良の消費者行政を考える会

基調講演 坂東俊矢氏（弁護士、京都産業大学大学院法務研究科教授、奈良県消費生活審議会委員）
「消費者行政活性化計画の成果とこれから(仮)」

パネルディスカッション コーディネーター：坂東俊矢弁護士

パネリスト▶奈良県消費・生活安全課 姫野課長補佐 ○大和高田市 吉田市長 ○河合第二中学校 柿本校長
○成年後見センター・リーガルサポート奈良支部 前川副支部長 ○奈良の消費者行政を考える会 北條代表

編集後記

年末に台風12号災害の被災地天川村と、岩手県にある東日本大震災復興支援の活動拠点を訪れる機会がありました。犠牲になった村民を想い目に涙を浮かべながら復興の決意を語られた村長さん、悲しみを笑顔で隠すかのように優しく訪問者の私たちを受け入れてくださった仮設住宅にお住まいの高齢の女性、住民の希望と絆のために日々奮闘する熱いボランティアのリーダー：日本には強くて優しい人たちが沢山いることに勇気づけられます。今年も生活協同組合としてできることを精いっぱいできる年したいと思います。（由）

昨年は大きな自然災害に見舞われ、人の力のはかなさに打ちひしがれました。一方で人と人のつながりによる人のすばらしさも感じられ、「絆」という漢字が選ばれました。今年、国際協同組合年。不安な将来だからこそ、みんなで考え支え合いながら、力合わせて乗り越える年にしていきます。近くの公園に家のサクソウの苗を植えて春を待ちます。（順）

昨年の漢字は「絆」。生協がこれまで大切にしてきた「つながり」「連帯」「助け合い」などの大切さをあらためて実感した年でした。さて、今年は皆さんにとってどのような漢字になるのでしょうか。私は「希望」「平和」の年となることを願っています。（和）

奈良県生活協同組合連合会 〒630-8136 奈良市恋の窪1丁目2-2

TEL 0742-34-3535 FAX 0742-34-0043

URL <http://www.narakenren.coop/>